

黒松

第79号

令和7年1月5日発行
柏崎刈羽地区保護司会
TEL(0257)23-8615
柏崎市豊町3-59
総合福祉センター内



紫金山・アトラス彗星（番神海岸） 撮影／保護司 佐藤俊男



刈羽村長

謹賀新年

品田 宏夫

初春を言祝ぎ、新年のお
祝いを申し上げます。

近年、コロナ禍で異なった正月風景が展開されてきました。特に昨年は、突然の地震に面食らった元日を忘れられません。

あつという間の一年。月日の経過は、心の傷を癒やしてくれます。円安、物価高、いろいろあつた令和6年は、過去となりました。

新年は、希望に燃えて迎えたいものです。旧年にやり残したことは、早速片付けましょう。残った悔いは、さらりと忘れてフレッシュなスタートを切りたいですね。様々な課題が表面化していますが、必ず解決できます。やればできる、必ずできます。挑戦する気持ちが解決策を生み出します。

あなたにも私にも、この社会に仲間がいます。あなたが優しく接してきたから、仲間達もあなたに優しく接してくれます。

頑張れば大勢の仲間が応援してくれます。頑張っている仲間を応援しましょう。ただ頑張りを放棄したら応援はしてもらえません。

挑戦する気持ちを持ち続け、応援され、応援する一年にしましょう。

私も大勢の皆さんの優しさに感謝しながら、第一歩を踏み出します。



家族と向き合う

柏崎市立第三中学校二年 五十嵐 有紗

私は、今まで犯罪や非行をニュースの中の事で、私の身の周りでは起こらない事だと思い、深く考えたことがありませんでした。今回、この「社会を明るくする運動」の作文について母に話すと、

「あなたのお父さん、非行少年だったはずだよ。」
といわれ、驚きました。

そこで、父はどんなことをしていたのか、その時、何を考えていたのか、どんな子どもだったのかを聞くことにしました。そして、犯罪や非行を理解できない私と何が違うのかを考えました。

私の父は、中学生の頃から飲酒、喫煙をしていました。理由は、父が少年だった40年前はタバコやお酒は子どもでも簡単に買うことができ、周りの大人の飲酒や喫煙をしている姿をよく見ていて、おもしろいと思うたからだと思います。そして、15、16歳の頃は集団暴走行為をしていました。友達の人に連れてもらい、150人くらいの集団で暴走したり、無免許でバイクの運転をして、警察に補導されたりしました。いつも夕方に出かけ、そのまま家に帰らなかったそうです。

私は父の話を聞いて、なぜそんな事をしたのか、全く理解ができませんでした。どうして私は悪い事をしたと思わないのか、父との違いを考えてみました。

私は家族や先生、近所の人を悲しませたくないし、自分から大切な人達との関係を無くすようなことにはしたくありません。非行をすることで夢を諦めるようなことになりたくないし、楽しくて幸せな今を壊したくないからだと思います。一方、父は自分さえよければ他の人なんてどうでもいいし、将来のことは考えず、今を楽しみたいと思っています。そして、非行の人達と一緒に悪い事をするのでつながら、父はそこにしか居場所がありませんでした。父の両親が家に帰らない父を放っておき、家族との交流が少なかったことも私と父の違いだと思います。では、当時の父が悪い事をしないためには何が必要だったのでしょうか。私は、周りの人との交流が必要だったと思います。

家族で毎日ご飯を食べたり、話をしたりして、一緒にいる時間をたくさん作ることで、近所の人に挨拶したり、自分と周りの人を大切にすることで、学校に行くこと。勉強ができてなくても、学校でみんなと過ごすことで、自分を認めてくれる本当の仲間に出会うことができたのではないかと思います。一人一人が自分の将来に夢を持ち、周りの人に関心を向けたり、向けてもらうことで、非行をする人が少なくなっていくのではないかと考えました。

非行をしてしまっても、子どもはまだ変わるチャンスがあります。非行をしてしまった子どもが立ち直るには、家族や周りの人が諦めないで向き合い、関わる努力を続けることも必要だと思います。そうすれば、その子どもは誰かからの愛を感じることができ、より優しい社会を作り上げていくことができるのではないのでしょうか。



保護司会長より表彰状の伝達

社会を明るくする運動作文コンテスト

柏崎市羽地区表彰者

● 柏崎市羽地区保護司会長賞

東中学校 二年 高木 萌果

● 柏崎市羽地区更生保護女性会長賞

第一中学校二年 本間 悠月

おめでとつございます



～ 私たちの活動 ～



北鯖石小学校で薬物乱用防止教室



刈羽村長に伝達



各町内でミニ集会を開催



刈羽中学校校門で啓発運動



更生保護女性会の総会



女性会が新潟少年学園の応援活動



毎年7月を中心に展開されている「社会を明るくする運動」につきまして、昨年も各地域の皆様から多大なるご支援・ご協力をいただきましたことに厚く御礼申し上げます。

いうまでもなく犯罪を犯した人たちの更生支援と犯罪防止活動が保護司の使命ではありますが、地域社会の理解や協力なしでは成しえることではありません。明るい社会の実現に向かって、今後とも一層のお力添えを賜りたくお願い申し上げます。

柏崎刈羽地区保護司会

会長 横田良英





災害で失う命をなくすために

防災士チーム柏崎 会長 中村 朝子



「防災士チーム柏崎」は、長岡市で開催された防災士研修講座を受講し、防災士の資格を取得した柏崎・刈羽地域のメンバーなどで、継続的な知識の習得や地域での防災啓発活動の実践を目的に結成した市民活動グループです。

現在は、柏崎でも講座が開催されており、市議会議員、町内会長、郵便局長など含め約90人のメンバーがいます。

結成時には、学習会や防災合宿でスキルを身に付けながら、市や学校に働きかけ、小中学校での防災研修、柏崎工業高校でDIG(災害図上訓練)という研修などの依

頼を受けるようになり、現在は、ガールスカウトの皆様や町内会からも研修の依頼を受けています。結成して2年後に「東日本大震災」が発生し、市民の皆様の防災への関心が高まったように感じます。

小中学校でのカードゲーム形式の防災教材である「クロスロードゲーム」の研修の際、生徒の皆さんから「命が大事」という言葉が多く返ってくる時には、継続することの意義を感じています。

近年の地球はいつ、どこで、大地震や豪雨などの災害が発生して



ワンカップで手作り雨量計

もおかしくない状態で、しかも、続けて複数の災害に襲われることもありま

す。どんな災害でも「命を守る」ために、日頃から備えておくことが大切です。

最近、研修にお邪魔する際、ワンカップのお酒の空きビンに1cmごとにメモリを付けた「マイ雨量計」をお孫さんと作ってみては？とおすすめしています。1時間に20mm、24時間であふれるようなら100mm以上で、土砂災害の可能性も考えられる雨量です。

手作りの装置があることで、豪雨災害にも、興味を持ってもらえると嬉しい

です。研修時に学校などでは、家に帰ったら家族と話をしてくださいと、必ずお願いしています。

皆様にも「家族防災会議」を開催して、平素から「もしもの時」を想像し、シミュレーションしていただきたいです。

そして、災害が発生しても、誰も命を落とさないことが私達の活動の意味だと考えます。

※「家族防災会議」は、新潟県HPに掲載されています。

令和6年度 各種表彰者

【法務大臣表彰】

高野八千代

【全国保護司連盟理事長表彰】

星野正仁

【関東地方更生保護委員会委員長表彰】

神林 均、佐々木恵一郎、田村 真

【関東地方保護司連盟会長表彰】

阿部和雄、桑田朋子

【新潟保護観察所長表彰】

箕輪正仁

【新潟県保護司会連合会長表彰】

大羽賀敏、名塚美幸、三嶋崇史

【新潟県保護司会連合会長家族功労者】

永寶幸江、今井加奈子

【関東地方更生保護女性連盟会長表彰】

柳 幸子

【新潟県保護観察所長感謝状】

石高寛子、江口由美子、大島陽子

品田美恵子、星野紀美子

【新潟県更生保護女性連盟会長表彰】

佐藤美智子、永寶幸江、渡邊トミ子

保護司の異動

新任 村山昭雄 (松波)

よろしく
お願いします